

## ◎成美地区公民館平成 30 年度運営の状況と評価

### (1) 運営の状況

項目	状況
年間総利用者数	322 団体 のべ 5,198 名 (公民館使用簿より)
開催事業・講座	計 84 回のべ 3,033 名参加 (うち道くさクラブ 34 回・1,396 名) (詳細は別紙「平成 30 年度事業実績」のとおり。)

### (2) 評価

#### ○評価項目及び評価

項目	評価の観点 (下記が適正にできているか)	特徴的取り組み・反省点など	評価
公民館の 目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者(職員・役員)の目的・目標理解と意欲的取り組み</li> </ul>	公民館の目的について運営協議委員会で再確認を行い、来館者にも分かるように公民館の目的をロビーに掲示した。	B
地域全体で 行う、まな びテーマの 把握・反 映・実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民学習ニーズの把握及び事業への反映</li> <li>地域課題、生活課題、現代的課題の事業への反映(講座リスト活用)</li> <li>発達課題、家庭教育、奉仕・体験活動に関する学習機会設定</li> <li>事業への住民参画推進</li> </ul>	<p>住民からの要望で、季節の保存食作りを開催し季節の野菜や果物を使い添加物のない安全な食べ物づくりをし、公民館祭でもレシピを配布した。</p> <p>講座リストを活用し、遺言や相続について行政書士を講師に話を聞く。</p> <p>区長会と連携を取り、防災の研修会を行い、防災意識を深めた。</p>	A
より自主的 なまなびの ススメと広 がり	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主運営学習グループづくり推進</li> <li>住民の自主学習支援</li> <li>学習リーダー、講師育成</li> <li>学習成果発表機会設定(作品展など)</li> <li>関係団体と連携しての事業実施</li> </ul>	<p>水曜道くさクラブの習字や公民館教室の作品を公民館祭に出品してもらい発表の場を設けた。</p> <p>公民館祭のかくし芸大会では地域で活動しているグループ等に出場してもらい、発表の場を設けた。</p> <p>船上キッズでは他の公民館と共催し、ボランティアの協力も得て事業内容の充実ができた。</p>	B
まなび情報 提供と職員 研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>講座開催、学習グループの情報提供</li> <li>図書など資料の提供</li> <li>職員研修(町教委主催など)への参加と自己研鑽</li> </ul>	<p>ホームページ掲載、音声告知放送、各種パンフレットやチラシなどをロビーに掲示し情報提供に努めた。</p> <p>寄贈の図書をロビーに配置し、自由に閲覧できるようにした。</p> <p>県・町・郡公連主催の研修に参加し、研鑽を続けた。また、他の公民館の事業に参加したり、作品展等を見ることで自ら学ぶ機会を作った。</p>	B
利用者目線 のまなびの 館づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>館管理、貸館、不在表示の適宜実施</li> <li>利用者への挨拶励行など、待遇改善</li> </ul>	不在表示を欠かさず行い、利用者に配慮した。館内外の清掃に努め、玄関周りの花が絶えないようにした。来場者にはすすんで明るいあいさつをするように心がけた。	A
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域学習拠点として全体総括</li> <li>次年度に向けての改善点</li> </ul>	全体的にはおおむね順調に進んでいる。地域課題や地域の人材の発掘を行っていきたい。	合計 17 点 (20 点中)

※評価 A: 適切・十分(4点) B: 概ね適切・概ね十分(3点) C: やや不適切・やや不十分(2点) D: 不適切・不十分(1点)

## ○平成30年度事業実績

## 成美地区公民館

事業名		内容	ねらい	実績(開催日・回数・参加人数等)
諸会議	公民館運営協議会	公民館の事業計画・運営方針について協議する	公民館活動の総括的な改善検討推進	6回 86名
	体育部長会	公民館の体育事業について協議	事業内容の把握、事業参加と協力	2回 40名
	水曜道くさクラブ ボランティア連絡会	水曜道くさ・ボランティアが集まり、学期ごとに反省会を行う。	道くさクラブの約束の確認と情報交換 運営の潤滑化	7/26 10名 12/13 11名
	分館長会	1月に新区長が集まり、公民館活動についての説明を行う。	公民館事業の周知と各種行事への参加協力	1/21 21名
	佐崎河川公園整備協議会	年間の活動計画について話し合う。	各区長への作業協力依頼と年間作業計画等	3回 48名
	学校地域戦略会議	学校・公民館・文化センター・地域ボランティアが集まり連絡をとりあう。	地域と学校の連携、行事や情報交換	8回 80名
女性教室	季節の保存食作り	季節の野菜や果物を使って添加物のない安全な保存食を作る。	食を通して健康な身体をつくる	7/21 10名 12/8 15名
	お正月リース作り	正月に飾るリースを作る。	参加者同士の交流と現代にあわせた伝統文化の伝承	12/22 13名
	視察研修	倉吉市の白壁土蔵群の町並みをガイドしてもらい、歴史講談を聞く。	地域の文化や歴史を学ぶ。	12/2 9名
	竹灯籠作り	以西地区公民館との共催で竹を使った灯籠作りをする。	趣味を通じて参加者の交流を深める。	3/3 13名
成人教室	相続と遺言のはなし	行政書士から相続と遺言について実例を交えて話を聞く。	相続や遺言についての正しい知識を身につける。	9/22 18名
	ミニ門松作り	正月に飾る室内用のミニ門松を作る。	現代にあわせた伝統行事の伝承	12/23 15名
	チャレンジ登山	赤碕中学校区の4館共催で山楽会の協力を得て登山を行う	自然に親しみ、健康づくりと親睦を深める	4/29 39名 11/5 29名
	園芸教室	年間を通してシンビジウムの栽培管理と情報交換。視察研修	花作りの栽培意欲の向上と、生きがいづくり	4/12 5名 5/27 12名

支放課後	水曜道くさ・お習字クラブ	下校の早い水曜日に、公民館で習字を習う。宿題をしたりボランティアさんと一緒に遊んだりする	習字を通して、あいさつや礼儀なども学ぶ。他の学年と一緒に遊び交流を深める。	毎週水曜日 計34回実施 こども1,226名 ボランティア170名
船上キッズ	和紙で作ろうさななつりおもちゃ	わらべ館共催で和紙を使った魚つりを作る。	ものづくりを通して手作りの楽しさを知る。	7/8 13人
	赤碕の海を楽しもう磯あそび	海に詳しい岩田さんに協力してもらい、磯の生き物を観察する。	海の生物やゴミから環境について考える。	7/16 17名
	ナイトウォークラリー	以西地区公民館事業と協賛で行う。グループを作りポイントを通りながら以西地区を歩いて回る。	歩いて回ることで、地域の再発見と、チームで協力し合う心を養う。	7/21 13チーム62名
	夏休み見学ツアー	鳥取砂丘こどもの国で工作をしたあと、プールで遊び、午後は博物館で開催の企画展を見る。	夏休みを利用して色々な施設の見学や体験をする。	8/6 20名
体育行事	グラウンド・ゴルフ大会	各部落に参加呼びかけ、団体戦・個人戦をあわせて行う。小学生から高齢者まで幅広い参加がある	健康増進と地域住民の親睦を深める。	6/17 14チーム84名
	町民運動会	保育園から高齢者まで広い年齢層が参加しやすいプログラムで実施	健康増進と地域住民の親睦を深める。	台風接近のため中止
	ペタンク大会	ソフトボール大会の代わりに誰でも気軽にできる競技として始める。	健康増進と地域住民の親睦を深める。	11/25 12チーム68名
	なわとび大会	部落対抗で跳んだ数を競う	健康増進と地域住民の親睦を深める。	2/11 12チーム 96名
	卓球大会	団体戦・個人戦(男・女・中高生・親子)で行う	健康増進と地域住民の親睦を深める。	団体戦9チーム 36名 個人戦 59名
催し・その他	防災研修会	区長会と連携し、地域の防災について学ぶ。	防災についての関心を深め、防災に備える。	7/21 18名
	公民館祭	公民館活動・地域住民・小学校・こども園・文化センターなどの作品展示	作品の発表の場を設ける	2/10 300名
	かくし芸大会	各部落が出場の他、地域で活動している団体やゲストも出演	練習を通して地域住民の親睦を深める	2/10 155名
	囲碁・将棋大会	地域住民が囲碁・将棋の腕を競い合う	参加者の親睦を深める	2/10 12名
	味噌作り	自家製、地元産の米や大豆を使い、グループで協力して味噌を手作りする。	自家製の米や大豆の利用と、無添加で安全な味噌作り。	11/22会議6名 12月～2月味噌作り39名
展示	古民具収集	古民具の収集と展示 小学生の昔の暮らしの学習で利用	道具を通して昔の生活の様子を知る。	1回 20名
化環境 活動美	佐崎河川公園整備協議会	地域住民、船上小学校、ふなのえこども園の協力を得て、年5回河川公園の清掃美化活動を行う	年間を通して清掃作業を行うことで環境美化を保つ	年4回実施 のべ参加人数 176名

自主活動推進	写真教室	それぞれが撮った写真を持ち寄り意見交換を行う。文化祭、公民館祭への作品出品	写真技術の向上と会員の交流	
	俳句教室	句会を開き、季節の句を詠む。合同俳句展、文化祭、公民館祭への作品出品。	俳句を通じて四季を感じ感性を養う。	